

医学的適応

- 1 三回目の誤嚥性肺炎、抗生物質治療にても改善せず
- 2 遷延する低栄養状態
- 3 嚥下困難・自力食事摂取不能
- 4 経鼻経腸栄養実施中
- 5 チューブ自己抜去あり身体拘束が必要
- 6 認知機能低下・気力低下・食欲低下
- 7 人工栄養で1年の予後が見込める、人工栄養は永続的となる
- 8 胃ろう造設の選択肢あり

(推定される) 患者の選好

QOL

周囲の状況

- 1 家族は楠木さんの状況をよく理解している
- 2 経鼻経腸栄養中止に関して、家族の意見は一致している
- 3 妻は介護に熱心だが介護疲れがある
- 4 家族仲は良好、長男家族も頻回に見舞いをしている
- 5 経済的に大きな問題はない
- 6 家族は「可哀想で見えていられない」と感じている
- 7 家族は経腸栄養開始について、本当の気持ちを言えなかった
- 8 妻は夫の楠木さんを自宅で看取りたいと希望している。